

Q18

スクリーニングチェックリスト実施の 目的と保護者の承諾の必要性は？

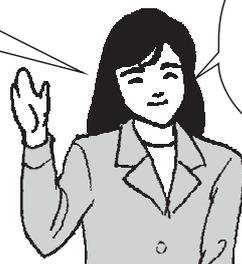
まずは
ここから



- 困っていることが見えにくい子に気付くために行います。
- 保護者と共に支援を行うことが欠かせません。

スクリーニングチェックリストとは：LD・ADHD等の傾向があるかどうかを見つけるために利用します。幾つかの項目についてチェックをし、該当する項目が多いほど、支援が必要な子どもであることが分かります。

【スクリーニングとは：スクリーン（英語で"網戸"や"ふるい"のこと）にかける、つまり、おおざっぱにふるい分けするという意味です。】



詳しくは
第1集を

⇒P70 資料参照

教員の気づきの手助けに

目的は「困っている子ども」に気づくこと。LD・ADHD等の有無をみるものであり、障害の判断や診断をするものではありません。教員が「支援が必要な子ども」を見過ごさないために使用するものです。厳密な結果が出るものではありませんが、子どもが困っていることがわかれば、そこから支援を考え始めることができます。

実施にあたっては、保護者の承諾を

調査に際しては、あらかじめ保護者に趣旨や内容、方法などを連絡し、了解を得た上で実施し、懇談会、家庭通知、個別懇談等で結果を返すことが大切になります。支援の必要が出てきたときに初めて説明するよりも、事前に説明してあったほうが、保護者にとっても受け入れやすいものです。連絡方法については、参観日での説明に加える、学年だよりを活用する等が考えられます。

学年だよりの例

お子さんは学校生活に満足していますか？

～ 学習や生活に困難さがないか、学級担任がチェックシートを使って調査を行います。～

学習や生活において困っている児童に、教師が気付かずにいることがないよう、客観的なチェックポイントにしたがって、全校児童の実態を見返すことにしました。その結果、学習面や生活面での特別な支援が必要だと思われる場合は、個々にご家庭と相談の上、必要で適切な支援をしたいと考えております。

ご意見・ご要望・ご質問等がありましたら、どんなことでもお申し出ください。



【**キーポイント**】 困っている子を見過ごさず、適切に支援を行うことが前提です。障害を判断したり、自律学級入級を勧めたりするためのものではありません。